5教科・弱点分析シート

生徒用｜得点推移から次の学習を決める｜人間確認前の試験版

対象	東京都立高校の共通問題を使う受検生（全点数帯）
対象教科	5教科
対象単元	学習管理（誤答原因の分類・優先順位・再学習計画）
対象点数	全点数帯
難易度	基礎～標準
目標時間	25分
公式確認日	2026-08-06

重要： この教材は東京都教育委員会の公式過去問を解いた後の自己分析用です。共通問題の標準的な記録では100点×5教科=500点として扱いますが、学校・募集区分によって検査教科、傾斜配点、換算方法が異なります。自校作成問題と共通問題の得点や年度別平均点を同じ尺度で単純比較しないでください。必ず志望校の最新要項、公式問題、正答表、採点のポイント、訂正情報を人間が確認してください。

教材の目的

過去問の得点だけでなく、誤答した設問、誤答原因、直す優先順位、次に行う学習を一続きで記録し、5教科の復習を具体的な行動に変える。

公式情報から確認できること

東京都教育委員会は、共通問題について教科別平均点・得点分布に加え、各教科・各問の正答と誤答を分析し、指導改善に役立てる調査を公表している。また、年度別の公式ページには5教科の問題、正答表、採点のポイントが掲載されている。したがって、弱点分析では得点だけを比べず、公式の正答表・採点のポイントで確認した自分の誤答を、知識不足、条件の読み落とし、解法・根拠、時間配分、見直しの5分類で記録する。平均点は個人の合格可能性や目標点を保証する数値としては使わない。

使い方

1. 公式の問題を時間を計って解き、公式の正答表・採点のポイント・訂正情報を確認して自己採点する。
2. 得点と年度を記録し、誤答した設問ごとに教科・単元・正答根拠を書き出す。
3. 誤答原因を「知識不足」「条件の読み落とし」「解法・根拠」「時間配分」「見直し」のうち最も近いものに分類する。
4. 初回と最新の得点差だけで決めず、繰り返す誤答と直しやすさも見て、最優先の教科・単元を一つ選ぶ。
5. 次に行う学習を「何を・どれだけ・いつまでに・どう確認するか」の形で書き、次回演習後に結果を追記する。

都立入試ナビ

練習問題

問題 1

公式過去問を3回分以上解いた記録を使い、(1)初回と最新の5教科計・教科別得点の差、(2)繰り返している誤答の単元と原因、(3)最優先で直す教科・単元、(4)次回までの具体的な学習行動を弱点分析シートにまとめなさい。得点差だけでなく、誤答の根拠と直しやすさも判断材料にすること。

過去問得点記録

回	実施日	過去問年度	国語	数学	英語	社会	理科	5教科計
1	____/__/__	令和__年度						
2	____/__/__	令和__年度						
3	____/__/__	令和__年度						
4	____/__/__	令和__年度						
5	____/__/__	令和__年度						
6	____/__/__	令和__年度						

合計確認：国語＋数学＋英語＋社会＋理科＝5教科計（各教科0〜100点、合計0〜500点）

得点推移と弱点分析

教科	初回	最新	差	根拠となる誤答・傾向	次に行う学習
国語					
数学					
英語					
社会					
理科					

最優先で直す教科・単元：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

次回までの具体的な行動：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

分析の問い

・最新の得点が最も低い教科と、初回からの伸びが最も小さい教科はそれぞれ何か。

・同じ単元・同じ原因の誤答が2回以上続いていないか。

・正答を見れば分かる知識不足か、考え方や根拠を説明できない理解不足か。

・時間切れになった設問と、見直しで直せたはずの設問を分けられているか。

・次の学習行動は、教材名だけでなく問題数・期限・確認方法まで具体的か。

・平均点や他人の得点ではなく、自分の誤答記録を根拠に優先順位を決めているか。

都立入試ナビ

記録後の自己確認

☐ 公式の正答表・採点のポイント・訂正情報を確認した

☐ 空欄や記述問題を自己判断だけで正解にしていない

☐ 誤答原因を結果ではなく原因の言葉で書いた

☐ 最優先で直す教科・単元を一つに絞った

☐ 次の学習に量・期限・確認方法を入れた

☐ 自校作成問題と共通問題を同じ尺度で比べていない

公式情報確認日: 2026-08-06 自分の確認日: ____年__月__日

都立入試ナビ

都立入試ナビ

都立入試ナビ